

(つづき)、

ベラ村灌漑が実現し、当面の目標、「全流域早期送水」を一応達成しました。今回の工事内容を見ると、初めに述べたように、取水設備、用水路、排水路、護岸堤防、河道整備、植樹などと多岐にわたり、培った経験が全て生かされる総合的なものになっています。これと並行して、ミラーン訓練所、カマ堰改修、ガンベリ排水路の工事が進み、実りの多い二年間でした。しかもこれまでになく治安情勢が厳しい中です。日本側の協力と PMS 側の覚悟がなければ実現はおぼつかなかったと思います。

9月までは灌漑網の整備に全力を挙げ、村民たちの帰農を促したいと考えています。しかし、早期灌漑を実現したとはいえ、本マルワリードⅡ計画はこれで終わったものではありません。以下が今後残された主な工事で、10月から一年をかけて実施する予定です。

1. 護岸工事；1.5～6.0 km地点のかさ上げ、6.0 km地点（ベラ村周辺）以降の新設、1.5 km地点、4.8 km地点の強化堤防の完成。

2. 河道整備；1.5 km地点のショートカットの完成。8.5 km地点（最終点）とミラーン間の河道安定。

3. 用水路上段部；0.9 km～1.5 km地点

4. 用水路および分水路の小架橋

5. 植樹および水やりは 8.5 kmの堤防、5.5 kmの主幹水路および主な分水路全体で行う。

今秋以後、実質的に自前の基金に依存することになりますので、関係団体と十分な連絡をとり、真剣に計画に取り組む態勢を切にお願い申し上げます。普及計画も始まったばかりですが、評判や言葉に欺かれず、やはり本事業の真骨頂は現場の事業にあることを再度強調したいと思います。

日本もひどい水害だったようですが、スムーズな復旧をお祈りいたします。

2018 年 7 月 11 日 記

護岸工事の先端。6 km～6.5 km地点は一昨年夏に浸食された場所だ。旧取水口から侵入した洪水流が幅約 100m、長さ 500m にわたって耕地と家屋の一部を洗い流した。それを回復するかのようにつ防工事が進む。締め固めをしながら、ただひたすら積む。外から来るたいていの技術者はその単調さに堪えきれないが、河川のダイナミックな変化を巨視的に読むと世界が変わる。村がどれだけ生き延びれるかという真剣勝負なのだ。2018 年 7 月 8 日





B2 岩盤からベラ村を望む。2018 年 7 月 6 日





下流（E 岩盤）側からベラ村を望む。難民化していた村民が三々五々戻って、テント生活を営んでいる。一昨年夏、分流の発生で同村は島状に孤立していたが、分流閉塞によって交通が自由となり、家を建て始める者も散見される。今回のベラ延長路開通は地域では画期的なもので、全域灌漑が可能。護岸工事が進めば、更に帰農が促進される。2018 年 7 月 6 日





ベラ村最下流地点から対岸を望む。対面はミラーン取水堰に相当する。2018年7月6日





ミラーン取水口と PMS 訓練所を遠望。ベラ下流端とミラーン対岸との間はクナール河の幅約 1000m、広い河川敷を縦横に河道が入り乱れる。2018 年 7 月 6 日





ベラ村最初の灌漑地。長い間放置されてきた土地は、今よみがえる。トウモロコシの、植えつけ時に間に合って村全体が喜びに包まれた。2018年7月11日





カチャラⅢ分水路の末端の架橋。分水路は約 1.5 kmを主幹水路に沿って下り、排水路にそそぐ。2018 年 7 月 11 日





カチャラⅢ分水路。用水路 1.6 km地点から約 1.5 kmを下る。守備範囲が広く（推定 100 畝以上）、所有が入り乱れるので、どこからでも水が取れるよう素掘りにし、シルトでコーティングしたもの。すべて洪水による荒廃地である。2018 年 6 月 30 日





強化堤防（4.8 km地点）川側の柳枝工。挿し木後約 1 週間。2018 年 7 月 11 日





芽吹いているかどうかは一週間後の状態で判断できる。赤い新芽が確認できたら、ひたすらそっとして、水を切らさない。ここジャララバードで、ヤナギは四季を通じて植樹できる植物だ。2018年7月11日

